

熊本大学病院 乳腺・内分泌外科



教授
山本 豊

令和四年四月一日付をもちまして熊本大学病院乳腺・内分泌外科の教授を拜命いたしました。

私は平成三年に宮崎医科大学を卒業し、初期および後期外科研修を東京都立駒込病院で行いました。この外科研修時代に戸井雅和先生（現京都大学大学院外科学講座乳腺外科教授）の指導のもと乳癌診療・研究の基本を学びました。その後、平成九年に一年は米国 Rosewell Park 癌研究所で留学生活を送りました。帰国後の平成十年に熊本大学医学部第二外科（小川道雄教授）に入局させていただきました、二年間の関連病院勤務後の平成十二年から熊本大学医学部附属病院に勤務しております。平成十六年の臓器別再編に伴い乳腺・内分泌外科の所属となりました。ここで名古屋市立大学から赴任された

初代教授岩瀬弘敬先生に乳癌診療・研究のより高度な指導を受け、乳腺専門医・指導医を取得し、現在に至ります。

当科は乳癌の集学的治療（手術・薬物療法・放射線治療）を中心とした乳腺診療と甲状腺・上皮小体（副甲状腺）の外科治療を専門領域としています。当科における乳癌診療は、診断から治療、そして緩和ケアまでトータルに行い、しかも、各分野に最先端の標準医療を導入し、かつ、各職種（医師、看護師、薬剤師、栄養士、ソーシャルワーカー、事務など）が協力したチーム医療を実践しており、大学病院ならではの専門性の高い医療を提供しています。

乳癌領域では、①画像ガイド下吸引針生検、②センチネルリンパ節生検を用いた腋窩郭清省略、③遺伝性乳癌卵巣癌症候群のカウンセリングと医学管理④乳房全切除術例への同時再建術、⑤がんゲノム医療が特徴的です。基本的にEBMに基づく乳癌診療を実践し、これらに加えて、全身療法である内分泌療法、分子標的治療、化学療法では、

複数の国内多施設共同臨床試験の責任医師を努めており、また、多くのグローバル治験に参画しています。

当院は日本専門医制度機構認定の基幹施設（乳腺外科専門医）であり、県下七つの連携施設とともに熊本乳腺専門研修カリキュラムを構築し、専門医制度機構下の乳腺外科専門医の育成を行っています。

研究分野では、以前より乳癌における重要な多数の生物学的因子の臨床的意義の解明を行ってきましたが、その中でも今後は更なる予後改善を目指した術前薬物療法を用いた Response-guided または Residual disease-guided treatment の開発、乳癌発症リスクに応じた検診体制の構築、リキッドバイオプシーの手法を用いた治療モニタリングや治療戦略構築のための研究を進めていく予定です。

当科の診療および研究は、多くの診療科、講座の先生方ならび多種多様な医療スタッフの皆様のご協力のもと成り立っております。今までの皆様のご厚情ならびにご協力に感謝いたしますとともに、今後もご指導、ご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

